

鉄 鋼 ニ ュ ー ス

「鉄の記念日」の行事

鉄鋼連盟では、かねて「鉄の記念日」制定について検討を進めていたが、安政4年大島高任が釜石にわが国最初の洋式熔鉄炉を築造し、始めて出鉄に成功した12月1日を選んで記念日とすることに決定し、今年はその第1回として、広く国民の鉄に対する認識を深めるため、鉄鋼関係各団体に呼びかけ協議の結果、連盟およびこれ等各団体共同主催の下につきの諸事業を行つた。

1) ポスターの製作配布—記念日を現わすポスター2万枚および記念日制定の趣旨や鉄鋼業の沿革、現状などを説明したチラシ5万枚を印刷、各団体を通じて全国に配布する。2) 墓前奉告祭—東京谷中の墓地にある大島高任の墓所に、各団体代表者、高任の縁者などが集り、墓前奉告祭を行う。3) 披露午餐会—墓前奉告祭の後、経団連はじめ関連産業代表、鉄連運営委員、各団体代表、報道関係者などの午餐会を開いて「鉄の記念日」制定の披露を行う。4) 宣伝—新聞、ラジオ、テレビなどを通じて記念日の制定や鉄鋼業の歴史などについて宣伝を行う。

欧米最近の鉄鋼事情

米国と欧州各国の鉄鋼業は、米国の立直りが目ざましいのに対して、欧州は需要の後退と在庫の増大、過剰設備に苦しんでいる。米国の製鋼操業率は4月第3週の47.1% (全能力100%) を底にして9月末には70% 台を超え、11月第1週には74.5% に達した。文字通りV字型の上向き方である。米国では例年クリスマスの数週間前には鉄鋼の操業率が下がるが、今年は例外で、12月は80% から85% の操業率になるだろうと見られている。これに対して、英国の鉄鋼業界は「しのび寄るマヒ状態に悩み、最低水準で操業している」(メタル・ブレンチ誌)、英国ではここ20年来鉄鋼は供給不足だったが、いまは需要の4か月分600万tの在庫を抱え込んで、国内価格(公定価格)の値下げさえ伝えられているほどだ。また今年の1~9月間の輸出は200万tで昨年同期の実績を15% 下回っている。このため10月の操業率は80% で人員整理、労働時間短縮などを行つている。欧州石炭鉄鋼共同体6カ国(西独、仏、伊、蘭、白、ルクセンブルグ)でもほぼ同じような状態で、たとえば西独では、投資の頭打ち、国内需要の後退から在庫は170万tと正常在庫をかなり上回っている。昨年は完全操業していたのに、最近の操業率は80~85%、これが年末には75% 程度に下るだろうとみられている。鉄鋼業界の人員整理も5,000人に達し、さらにふえる予想だ。フランスも内需の後退から在庫がふえており、12月にはフランス鉄鋼業で戦後はじめての計画的減産に踏み切るのではないかという見通しである。米国の活況は、このまま来年に持ちこまれ来年の粗鋼生産高は1億1千万tと今年の予想実績を26% も上回るものとみられている。しかし欧州の鉄鋼業界には、米国の活況の影響はまだ兆しを見せていない。英国では金融の緩和、投資の奨励などの景気対

策がとられているが、まだ鉄鋼需要を上向かすところまではいっていない。ただ西独では鉄鋼の在庫調整が進み、来年3,4月頃には一応150万tの正常在庫となり、需要が立直るだろうという期待がかけられている。

しかし欧州としては当面、なんとしても輸出の増加をはかることに懸命で、西独ではこのほど中共と鋼材35万tの輸出契約を結び、フランスでも7~9月に中共向けに19万tを輸出した。これらの取引で、中共は思い通りの低い輸入価格を押しつけることに成功したと伝えられる。しかし欧州は鉄鋼不況からぬけ出すため、たとえ買いたたかれても日本との貿易が途絶えている中共をはじめ、東南アジア、中東などの市場に積極的に進出するものとみられている。

チリの鉄鉱開発計画

三菱鉱業および三菱商事では、チリのアドリアニタス鉄鉱山の開発を計画している。この鉄鉱山開発は三菱鉱業、三菱商事、三菱銀行、三菱海運、三菱造船など三菱系大手各社が共同で現地に新会社を設立して行うもので採掘した鉄石は八幡製鉄が全量購入する計画になつている。アドリアニタス鉄鉱山は、チリの中央部コピアポ市近郊で、カルデラ港から56km離れた地点にあり、その鉄量は、三菱鉱業が調査した結果では約1千万tと推定されており、品位は平均65%、最高68%程度で、とりあえず年間30万tの規模で開発、4万t~4.5万tの鉄石専用船を用いて輸送することになつている。

ドミニカの鉄鉱調査

三井鉱山では、さきに中米ドミニカ政府の要請で、同国の鉄鉱開発の視察団を派遣したが、明年ははじめさらに調査団を派遣、ボーリングによる探鉱を実施する予定で同社はこの結果次第で開発に乗り出すかどうかの態度を決める。もし三井鉱山が乗り出すことになれば、三菱鉱業を中心とした三菱系各社のチリ鉄鉱山開発計画と同様三井造船、三井船舶など三井系各社に働きかけるものとみられている。三井鉱山が調査したところによると、同国の開発予定地はハイヨ地区で、品位は65% 同地区に近いアイナ港には三井船舶の南米航路が寄港しているなどの利点があるので、同社ではこの開発に興味を示している。しかし埋蔵量が不明なので、探鉱結果をまつて態度を決めようとしている。また日本—ドミニカ間は、パナマ運河を通るため海上運賃が割高となるなどの問題点があり、開発が実現するのは4~5年後とみられている。

川鉄千葉ストリップ完成披露

川崎製鉄が、千葉製鉄所建設第2期工事として、資金約162億円を投じ32年2月着工したストリップミルは、今春4月7日ホットの完成に引続き、6月7日にはコールドも操業を開始した。その後各設備とも順調に稼働し、生産が軌道に乗ると共に、製品の品質も改善されるに至つたので11月8日官民関係者約800名を招いて披露を行つた。